

すわみつえ通信

No.133 2020年7月20日(月)

日本共产党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBTOON

すわみつえ



ホームページで、すわみつえ
の政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かし いのちとくらしを守る市政に

京都大学総長

山極 寿一さん



「ロナが問う日本と世界」の欄で、京都大学総長・山極寿一さんは、「新型」ロナウイルスの感染拡大が明らかにしたことは、地球の環境破壊を抑えないと、気候変動の問題だけでなく、感染症の蔓延をもたらし、経済・社会に大きな被害をもたらす」と話しています。

身の回りに起きている事象から社会に目を向けて、変革する「」が求められていくのではないかでしょうか。

例年であればさぞやたちは夏休みになる頃です。神奈川県に住む少子化の孫たちが鴻巣で一週間を週に2回の定でしたが、今年はいつもできません。何しろ2週間しかない夏休み。しかも新型コロナ感染が再び広がっています。互いに我慢しながらなりません。子どもたちが図託なく週に2回の社会見学へいってるのは大人の役割と見ておき。

子どもたちに 安心の社会を

公共施設での活動が
緩和されます

感染防止策を取りながら控えていた活動を再開しましょう――



【総合教育を傍聴しし】
タイムルを『①市長、スピード感をもつて今年度末「廃止」と掲載しめたが、正しへは、『①市長、スピード感をもつて笠原小「廃止」を検討』でした。
回憶の文中、『「スピード感からすねじり」年度末』と笠原小学校「廃止」に対する具体的な期日を明言しました。』と掲載しましたが、正しへは、『「スピード感をもつて笠原小学校「廃止」に向かって検討を進める』でした。
お詫びして訂正いたしました。
☆正確さを念頭におき発信してまいります。

すわみつえ通信No.131 お詫びと訂正について

忖度死意義申し立ての
妻一び
ばし

俳句コーナー

琉璃子



毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。
(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

「GOTO」は見送れ

しんぶん赤旗 7月19日付

政府は、新たな感染拡大が生じているにもかかわらず、有効な対策をなにも行わないまま、経済活動の再開を急いでいます。

その象徴が旅行代金の半額を補助するという「GOTOトラベル」事業です。政府が全国一律の前倒し実施を決定したことに対して、国民や知事などから反対や懸念の声が上がり、あわてて「東京を除外する」ことを決めました。しかし、東京以外でも感染が広がっており、こういったものでの実施は感染拡大を促進する暴挙というほかありません。「GOTOトラベル」は開始見送りをきっぱり決断すべきです。観光業支援というのなら、旅館などの観光業者を直接支援する方向に予算を振り向けるべきです。

「コロナ対策で政府が「こうした迷走を繰り返すのは、「感染防止に必要な休業要請を、補償とセットで行う」という確固とした立場に立たないからです。」これは、他の支援策でも同様です。

政府が当初打ち出した対策は、金額が「少ない」、給付対象が「狭

い」ということから、政府が「東京以外でも感染が広がっており、こういったものでの実施は感染拡大を促進する暴挙というほかありません。「GOTOトラベル」は開始見送りをきっぱり決断すべきです。観光業支援というのなら、旅館などの観光業者を直接支援する方向に予算を振り向けるべきです。

政府が当初「収入が半減」した世帯などに限定しようとした給付金は、「国民一人10万円」に変更されました。雇用調整助成金の助成率を3分の2から最大10割に引き上げ、上限額も8330円から1万5000円に引き上げて、手続き書類も簡素化させました。運動の力で制度を拡充させた重要な成果です。

「これからも声をあげ政治を変えたい」とが必要です。



日本共産党の塩川鉄也衆院議員は日本共産党の北関東ブロック一斉宣伝で「GOTOトラベル見直せ」の訴え、豪雨災害救援募金に取り組みました。=7月17日、埼玉県朝霞市の北朝霞駅前

「扇子使って飛沫防止を」京都の老舗が提案「宮中のようで雅!」とSNSで反響



扇を広げて口元を涼しげに覆う、扇子を使った飛沫（ひまつ）感染防止のエチケットを、京都市中京区の京扇子製造販売の老舗・大西京扇堂（天保年間創業）が提案している。マスクの着けっぱなしに疲れた時や、フェースガードが似つかわしくないような場面で活用でき、会員制交流サイト（SNS）では「雅（みやび）な感染防止」「平安時代みたい」などと反響を呼んでいる。

6月初めに来店して扇子を買い求めた初老の男性が「友人の食事会に、フェースガードを着けるわけにもいかない。しゃべるときに顔を隠そうと思って」と、店員に話したのがヒントになった。話を聞いた社長の大西将太さん（34）が「扇子の使い方の一つとして、広く提案できるのではないか」と、店のツイッターにつぶやき、実際に扇子で顔を隠してみた画像もアップした。（上の写真）

新型コロナの影響で今年の売り上げは、昨年の2割程度だが、「悲観していても仕方ない」と、疫病よけの妖怪・アマビエをデザインした扇子の販売を企画した。3千円と2200円の2種類がネット通販で早々に完売し、追加生産するほど人気を集めた。夏場は長時間のマスク着用が熱中症のリスクを高めることが懸念されている。大西さんは「扇子なら夏に持ち歩いてもらいやすい。扇子が見直されるきっかけになれば」と話している。

【京都新聞 7月1日付】

バンクシー、ロンドン地下鉄に新作 マスク着用呼び掛け

【ロンドン時事】正体不明の路上芸術家バンクシーは7月14日、英ロンドンの地下鉄の車内に落書きした新作を公表した。公式インスタグラムに投稿した動画の中で、マスクを使って遊ぶネズミなどを描き、「私はロックダウン（都市封鎖）された。でもまた立ち上がるんだ」とのメッセージもつづった。

投稿では「マスクをせよ、さらば与えられん」との一句を添え、新型コロナウイルスの感染防止のため、人々にマスク着用をユーモアたっぷりに呼び掛けた。新作では、マスクをパラシュートのように使って空を飛ぶネズミ、マスクで目隠しするネズミなどが登場。防護服姿の清掃員に扮（ふん）して落書きするバンクシーとみられる男性も出演した。動画のBGMには、英ロックバンド



「チャンバワーバ」の代表曲「タブサンピング」が使われた。



【時事通信社
7月15日付】